

地理歴史科（歴史総合）学習指導案

単元名「経済危機と第二次世界大戦」

令和7年10月 第1学年 指導者 細谷 実路

I 単元の構想

1 単元観

本単元は、必修科目「歴史総合」の大項目「C 国際秩序の変化や大衆化と私たち（2）経済危機と第二次世界大戦」に位置付けられ、20世紀前半の国際社会が不安定化していく中で、各国が政治的・経済的課題にどう向き合い、最終的にどのように戦争へと至り、どのように終結したのかを多面的・多角的に考察することを目的とする。

まず、第一次世界大戦後に成立したヴェルサイユ体制及びワシントン体制を取り上げ、戦間期における国際協調の理想とその限界を確認する。その上で、世界恐慌を契機として国際協調体制が揺らぎ、自国中心主義が台頭していくプロセスを確認する。続いて、ドイツ・イタリア・日本におけるファシズム及び全体主義の成立と、それを支えたプロパガンダや国民統合の手法を扱い、戦争体制が国内でいかに構築されていったのかを読み解く。さらに、満州事変・日中戦争の勃発や国際社会からの批判的な視線、日本の国際的孤立の進行といった過程を通して、対外関係の変化にも着目する。

本時の授業では、アメリカで発行された風刺画「春の歌に踊る」を教材として扱う。生徒は、そこに描かれた各国（日本・アメリカ・ドイツ・イタリア・フランス・国際連盟など）の立場や役割を読み取り、国際社会が戦争の危機をどのように捉えていたのかを考察する。図像表現や短い英文を分析することで、当時の国際社会の視点や政治的意図を探り、国際協調の理想と現実の隔たりを理解する。また、ジグソー活動を通じて各国の視点を持ち寄り、「なぜ国際社会は再び戦争へと向かったのか」という問いを多面的・多角的に考察することで、各国の立場を関連付けて、国際関係の構造を見通す力の育成を図る。

最後に、ドイツのポーランド侵攻や日本の真珠湾攻撃を含む開戦の経過から、戦局の推移、終戦に至るまでを年表で整理し、風刺画で得た学びと統合することで、戦争の全体像を俯瞰する。

本単元で扱う歴史的事象は、単なる知識習得にとどまらず、「なぜこのような選択がなされたのか」という問いを通して現代社会に通じる課題ともつながっている。特に風刺画などの絵画資料を読み解く経験は、現代のSNSやメディアリテラシーにもつながる重要な学びであり、情報の意図や背景を様々な視点から捉える力の育成に資すると考える。

2 研究との関わり

本単元は、研究主題「多様な学びを結び付けながら歴史的事象を考察できる生徒の育成 ～他教科連携と協働的探究活動を通して～」を踏まえて構成している。研究のねらいは、教師主導の知識伝達型授業からの転換を図り、生徒が主体的に資料と向き合い、異なる教科の知見を活用しながら、歴史的事象を考察する力を育成することである。

そのため本単元では、英語科と連携し、英文を含む風刺画を教材として用いることで、言語理解と歴史的思考を接続する学びの構成を図る。図像表現や短い英文を分析することで、当時の国際社会が抱えていた問題や戦争への危機感を理解する。また、ジグソー活動を通じて各国の視点を持ち寄り、根拠を示しながら意見を交換し、自らの見解を形成する経験を重ねる。

第6時では、開戦から終戦までを年表で整理し、風刺画で学んだ視点と結び付けて総括する。これにより、生徒は個別資料の分析と全体史的な理解を統合することができる。風刺画という教材は、戦争の当事者ではない第三者の視点や国際社会からのまなごしを可視化するものであり、日本中心の視野から一歩離れ、グローバルな視点で歴史を捉える力を養う上でも有効である。こうした教科横断的な視点と協働的探究活動を重ねる本単元は、本研究の方向性に即した実践であるといえる。

3 単元の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
知識及び技能	第一次世界大戦後の国際秩序や世界恐慌、ファシズムの台頭、第二次世界大戦の勃発など、20世紀前半の国際情勢と日本の動向について理解する。	中学校で学んだ戦争に関する基本語句はおおむね定着しているが、事象間の因果関係や世界情勢との関連への理解は浅い。

<p>思考力、判断力、表現力等</p>	<p>複数の資料（統計・年表など）を比較・関連付け、多面的・多角的に歴史的事象を考察する。 資料から、各国の立場や国際社会の視点を多面的・多角的に読み取り、本時の問いに対して自分の考えを整理・表現する。</p>	<p>絵画などの視覚資料には関心を示す一方で、その視覚資料の背景や文脈を読み取る力には課題がある。 自分の考えを、根拠を明確にして伝える経験が少なく、他者と比較・検討する場面では主張が曖昧になる傾向がある。</p>
<p>学びに向かう力、人間性等</p>	<p>歴史的事象に関する問いに対し、根拠となる資料を活用しながら、多面的・多角的な視点で粘り強く解決しようとしている。 英語や図像など他教科・他分野の知見と関連付けながら、協働的に学び合い、20世紀前半の国際情勢や日本の動向について主体的に追究する。</p>	<p>歴史的事象を個別の事象として暗記することに終始し、歴史的事象の背景やその影響を深く考えようとする姿勢が十分ではない。 グループ活動には協力的で前向きに関わるが、学習内容について、自分の考えを明確に伝えたりする場面では消極的になる傾向がある。</p>

4 評価規準

<p>知識・技能</p>	<p>第一次世界大戦後の国際秩序や世界恐慌、ファシズムの台頭、第二次世界大戦の勃発など 20 世紀前半の国際情勢と日本の動向について、その背景を含め正確に理解している。</p>
<p>思考・判断・表現</p>	<p>統計資料や年表をもとに、各国の対応や動向を比較・関連付け、歴史的事象の因果関係を多面的・多角的に考察している。 資料をもとに、各国の立場や国際社会の視点を、根拠を示して読み取り、本時の問いに対して自分の考えを整理・表現している。</p>
<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>歴史的事象や風刺画に対して疑問をもち、自分の考えを明確に伝えようとしている。 英語など他教科の知見を活用しようとする姿勢が見られ、協働的に探究課題に取り組もうとしている。</p>

5 指導及び評価の計画（全6時間：本時第5時）

過程	時間	□学習活動	知	思	態	◆評価項目<方法（観点）> ○指導に生かす評価、●評定に用いる評価
つかむ	1	<input type="checkbox"/> 第一次世界大戦後の国際秩序（ベルサイユ体制・ワシントン体制）の成立と課題を資料から読み取る。 <input type="checkbox"/> 国際協調を支えた仕組みや条約の内容を整理する。 <input type="checkbox"/> 国際協調の理想と現実を考察する。	●	○		<p>◆戦後の国際秩序（ベルサイユ・ワシントン体制）の特徴を理解している。〈ワークシート（知）〉</p> <p>◆条約の内容や国際関係の変化から、戦間期の国際体制の意義と限界を考察している。〈観察・ワークシート（思）〉</p>
<p>[単元を貫く問い] なぜ国際社会は二度目の大戦を防げず、どのようにして終戦を迎えたのだろうか？</p>						
<p>[本時の問い] 戦間期の国際社会にはどのような欠陥があったのだろうか？</p>						

追究する	2	<input type="checkbox"/> 世界恐慌時の株価の推移や失業率、政策比較表などを読み取り、アメリカ・イギリス・フランス・ドイツ・イタリア・ソ連・日本の対応を整理する。 <input type="checkbox"/> 各国が「自国優先」に傾いていく背景をグループで検討し、経済と政治の関係を考察する。	○	●	◆ 世界恐慌が各国に与えた影響と、その対応の違いを理解している。 〈ワークシート（知）〉 ◆ 経済統計資料をもとに、危機への対応が各国の政治体制に与えた影響を多面的に考察している。 〈観察・ワークシート（思）〉
	<p>[本時の問い] なぜ、国際協調が保たれなくなったのだろうか？</p>				
	3	<input type="checkbox"/> ヴェルサイユ条約での賠償金、失業者の数、インフレなどドイツの苦境を表す資料を読み取り、当時の社会状況を整理する。 <input type="checkbox"/> ヒトラーの演説、ポスター、写真などの資料をもとに、なぜ多くの国民がナチスを支持したのかを考察する。 (補足：イタリアのムッソリーニ率いるファシスト党については、独伊の共通点と相違点の観点から端的に学習する。)	○	○	◆ 第一次世界大戦後のドイツがどのような困難に直面していたかを理解している。また、経済的困窮や不満を背景に、ファシズムが支持された過程を理解している。 〈ワークシート（知）〉 ◆ 資料からナチスが国民に訴えた内容や表現手法を読み取り、それが当時の社会状況とどのように結び付いていたのかを考察している。 〈観察・ワークシート（思）〉
<p>[本時の問い] 人々はなぜ、独裁者を受け入れたのだろうか？</p>					
4	<input type="checkbox"/> 満州事変から国際連盟脱退、日中戦争に至る報道資料（写真・新聞記事など）を読み解く。 <input type="checkbox"/> 日本の行動が国際社会にどう受け止められたのかを考察し、孤立の要因を整理する。 <input type="checkbox"/> 同時期のドイツ・イタリアの動きと比較しながら、報道と国民意識の関係について意見交換をする。	○	○	◆ 資料の内容を正確に読み取り、歴史的事実とその背景を的確に捉えている。 〈ワークシート（知）〉 ◆ 国際社会の視点に立って考察し、日本の孤立の過程を論理的に整理している。 〈ワークシート（思）〉 ◆ 他国との比較を踏まえ、自らの意見を、根拠をもって表現している。 〈観察・ワークシート（思）〉	
<p>[本時の問い] 日本はなぜ、戦争への道を進んだのだろうか？</p>					

	5 (本時)	<input type="checkbox"/> 英文入りの風刺画を読み取り、各国の描かれ方の特徴や意図を考察する。 <input type="checkbox"/> ジグソー活動で各国の立場を持ち寄り、戦争に向かう構造を整理する。 <input type="checkbox"/> 学習で得た気付きや考えを整理し、国際協調の理想と現実について自己の学びとしてまとめる。		○ ●	◆ 風刺画に用いられた図像や言語表現をもとに、その意図や背景を論理的に考察している。 〈ワークシート (思)〉 ◆ 各国の立場を比較して、戦争に向かう構造を関連付けて説明している。 〈Google スライド (思)〉 ◆ 授業で扱った資料や仲間との話し合いを通して得た気付きを基に、自らの学びを振り返り、次につながる課題や学び方を見いだそうとしている。 〈ワークシート (態)〉
[本時の問い] なぜ国際社会は再び戦争へと向かったのだろうか？					
ま と め る	6	<input type="checkbox"/> ドイツのポーランド侵攻、日本の真珠湾攻撃をはじめとする開戦から戦局の推移、終戦に至るまでの流れを年表で整理し、第二次世界大戦の全体像をつかむ。 <input type="checkbox"/> 広島・長崎の原爆投下、終戦の詔勅を資料で読み取り、戦争終結の意味を考察する。 <input type="checkbox"/> 単元全体を振り返り、「世界はなぜ戦争に突き進んだのか」「戦争はどのように描かれ、人々に伝えられてきたのか」について、自分の考えを整理する。		○ ○	◆ 第二次世界大戦の開戦から終戦までの流れを年表で整理し、因果関係を意識して説明するとともに、風刺画での学びを関連付けて戦争の全体像を考察している。 〈ワークシート (思)〉 ◆ 戦争の全体像を俯瞰する活動に主体的に取り組み、他者との意見交流を通して理解を深めようとする態度を示している。 〈観察 (態)〉
[本時の問い] 第二次世界大戦はどのように開戦し、どのように終結したのだろうか？					

II 第5時の学習

- 1 **ねらい** 英語を含む風刺画を、国ごとの立場に分けて読み取り、戦争が避けがたいものとなっていった過程や、その危機感の表現を考察する。グループでの意見交流を通して、戦争をめぐる国際社会の視点や意図を多面的・多角的に捉える力を育成する。

2 展開

<p>主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕</p>	<p>◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)</p>
<p>1 前時までの学習を振り返り、本時の問いと資料(風刺画「春の歌に踊る」)を提示する。 (導入5分)</p> <p>S:「風刺画には皮肉がこめられているものが多いよね。」</p> <p>S:「同じ絵でも、全員が全員同じように感じるわけではないと思うな。」</p> <p>S:「この絵は何を風刺しているのだろう?」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><本時の問い> なぜ国際社会は再び戦争へと向かったのだろう?</p> </div>	<p>○これまでの授業で扱った風刺画を手掛かりに、生徒は共通する表現方法やテーマを挙げるよう促す。</p> <p>○人によって風刺画の捉え方が異なることを意識し、それぞれの見方が新たな発見や考えの広がりにつながることを伝えられるよう促す。</p> <p>◆風刺画から問題意識を見出し、学習課題を自分事として受け止めようとしている。 (観察(態))</p>
<p>2 エキスパート活動 担当する国ごとに分かれ、風刺画「春の歌に踊る」のセリフの翻訳や構図・表現から意図を考察し、ワークシートに記録する。 (展開① 15分)</p> <p>S:「人物の表情に着目したいね。」</p> <p>S:「英文をただ直訳しただけではよく分からないよ。」</p> <p>S:「“War Debts”って『戦債』って意味かな? フランスのセリフと関係あるのかも。」</p> <p>S:「神に操られているみたいに描かれているから、各国が自分で動けない状況を風刺しているんだと思う。」</p> <p>S:「日本だけ笑っているのは変じゃない?なぜだろう?」</p>	<p>◎英語の表現については、英語科の教諭と連携して机間巡視にあたり、生徒が自分なりの言葉で意味を捉えられるような声かけやサポートを行う。</p> <p>○風刺画の読み取りに戸惑いが見られる場合には、生徒が絵の構図や比喩表現に着目して読み取れるよう支援する。</p> <p>○グループ同士で気軽に気付きを伝え合うことを促す。</p> <p>○言語化に詰まっている生徒には、用語や語句のヒントを与えて考察の方向性を助言する。</p> <p>◆視覚資料(風刺画)の表現方法や背景をもとに、描き方の意図を読み取っている。 (ワークシート(思))</p>
<p>3 ジグソー活動 各国や国際連盟の立場の読み取りを持ち寄り、「GBQシート」を活用してグループの考えを整理・共有する。 (展開②20分)</p> <p>※「GBQシート」とは、本時の問いの解答を構成するための視点を整理するツールである。GBQの各要素は、G=Good(歴史的</p>	<p>◎エキスパート活動で得た気付きをグループで持ち寄り、互いの読み取りを聞き合う中で「なるほど」「そういう見方もあるんだ」と実感できるような協働の雰囲気をつくる。</p> <p>◎生徒が各国の立場や視点をつなげて整理できるように、板書やワークシートに整理のヒントを示し、意見が出やすい雰囲気をつくる。</p>

<p>象に関するよい点・肯定的に捉えられる点)、B=Bad(歴史的事象に関する課題点・問題点)、Q=answer to Question(本時の問いの解答)を示している。</p> <p>S:「フランスは戦債に苦しんでいて、余裕がないのが問題だね。」</p> <p>S:「イタリアは力で何とかしようとしていて、国際協調とは真逆の動きだと思う。」</p> <p>S:「日本が笑顔なのは、得をしている状況を皮肉っているのかもしれない。」</p> <p>S:「このままでは協調できず、結局戦争に向かってしまうんじゃないか。」</p> <p>S:「国際連盟が弱くて止められないから、紛争が広がる可能性があると思う。」</p> <p>S:「アメリカが巻き込まれていくと、世界規模の戦争になる流れを示しているんだと思う。」</p>	<p>○比較対象となる他国の立場について生徒が話しやすくなるよう、エキスパート活動での視点を確認しながらの意見共有を促す。</p> <p>○全員が発言できるように、意図的に指名したり、役割分担を明確にしたりする。</p> <p>○話し合いが一方的にならないように、「どうしてそう思ったのか」「どのような時代背景があるのか」などと問いかける。</p> <p>◆根拠に基づいて自分たちの考察を整理し、他者に伝わるように工夫してまとめている。(Google スライド「GBQシート」(思))</p>
<p>4 まとめ・振り返り ジグソー活動から導いた本時の問いの解答を共有・発表し、その振り返りをワークシートにまとめる。 (終末 10分)</p> <p>S:「この絵からは“国際協調の限界”が伝わると感じた」</p> <p>S:「日本が笑っているのは不気味だと改めて思った。国際社会の不安が表れている。」</p> <p>S:「なぜ戦争に向かったのかを考えると、経済問題や協調の失敗が大きかったと思う。」</p> <p>S:「背景にある当時の国際関係をもっと調べたいね。今の知識だとちょっと説明しきれない部分がある気がする。」</p>	<p>○振り返りでは、「気付いたこと」「自分の見方や考え方が変わったところ」「他グループの考えで面白いと思った点」など、生徒が書きやすくなるような具体的な声かけを行う。</p> <p>○生徒が学習内容を自分の言葉で整理できるよう、「今日分かったこと」「印象に残った表現」「自分の考えの変化」など、書きやすい切り口を提示する。</p> <p>○単なる感想にとどまらず、「なぜそう考えたのか」「資料のどの部分が根拠になったのか」など、理由や根拠を意識できるような発問を行う。</p> <p>○書かれた内容から、異なる視点や新しい気付きが見られる記述を紹介し、学習の多様性を確認できるようにする。</p> <p>○記述の難しさを感じる生徒に対しては、「疑問に思ったこと」や「まだよく分からないこと」も立派な振り返りであることを伝え、安心して書けるように促す。</p>
<p>◆評価項目</p> <p>授業で扱った資料や仲間との話し合いを通して得た気付きをもとに、自らの学びを振り返り、次につながる課題や学び方を見付けようとしている。 (ワークシート(態))</p>	

3 板書計画

- ・「GBQシート」完成イメージ

(例)	
<p>G:一次大戦後の国際秩序で評価できること(良かった点)</p> <ul style="list-style-type: none">・国際連盟という「協調の仕組み」が存在していた。・各国が「平和を守ろう」という建前を共有していた。・戦債返済や経済復興に取り組む姿勢は一応あった。	<p>Q:本時の問い (国際社会はなぜ再び戦争に向かったの?)</p> <ul style="list-style-type: none">・協調が機能しない → 各国が利己的に行動 → 緊張激化。・戦債や、世界恐慌による経済不安を背景に、国家が強権的にふるまう。・日本、ドイツ、イタリアの拡張や、アメリカの消極性により、均衡が崩れる。・軍拡競争の加速:各国が自国の安全保障を優先。軍縮条約に違反するように。・不信の連鎖。・最終的に「再び戦争へ」という結末に至る。
<p>B:一次大戦後の問題点(悪かった点)</p> <ul style="list-style-type: none">・仏:戦債に苦しみ、経済的に立ち行かない。・米:孤立主義的で、引きずられながら関わる消極姿勢。・伊:力づくで自国の利益を追求している。・日:笑顔で「得」をしているように描かれ、国際協調に反して拡張を志向している。・国際連盟:戦争の神に操られ、無力な存在として描かれている。	

参考文献

- ・若林悠『風刺画が描いた JAPAN—世界が見た近代日本』国書刊行会、2022年、P151, 162, 168.
- ・若林悠『風刺画とジョークが描いたヒトラーの帝国』現代書館、2020年、P90, 147, 184.
- ・「風刺画 com.」 <https://fuushiga.com/war/>